

きゅうみのじけじゅうたくしゅおく 旧美濃地家住宅主屋

閉館日を除き 9 時～16 時まで見学可能
閉館日：月曜日、祝日の翌日
冬季（12 月 16 日～3 月 15 日）

1. 建物の概要

所在地 益田市匹見町道川
所有者 益田市
建築年代 江戸後期（1751～1830） /
安政 2（1855）年・昭和前期・
平成 17（2005）年改修
登録年 平成 30（2018）年
構造等 木造平屋一部 2 階建・茅葺
建築面積 333 m²



【旧美濃地家住宅主屋】

2. 沿革

江戸時代後期に上道川村において周辺の村々を掌った割元庄屋美濃地家の旧宅
平成 15（2003）年に美濃地家から地域のために活用できればと匹見町に寄贈される。
平成 17（2005）年に修復工事を終え、旧割元庄屋美濃地屋敷として開設。

3. 建物の特徴

この建物は間口 13 間半、奥行 8 間半に及ぶ割元庄屋らしい大規模な農家建築である。

国内最西端の豪雪地帯に立地していることから、屋根は 9 寸返しとする急こう配なもので、合掌造民家に通ずる豪壮な佇まいが見事である。

平面構成は、下手に広い土間を持ち、上手の床上部は食違 7 間取りとしているが、一般的に客座敷を最も奥まったところに置くことに対して、「座敷」の上手にさらに「上の間」と呼ばれる小間を持つことが顕著な特徴として認められる。また、多くの農家建築では表と裏の諸室を建具で緩やかに隔てているが、この建物では座敷飾や押入等をもって表側と裏側をより物理的に明確に隔てていることも際立った特徴といえる。



【格式高い設えの座敷】

また、表側だけでなく家族の生活領域である裏側の諸室の一部にも長押^{なげし}を巡らすなど、一般的な農家建築に比べ、格式を高めた造りとしている。

式台玄関や上の間を設け、高い格式を見せており、旧割元庄屋の繁栄を今に伝える貴重な建築といえる。